

森林再生

森林再生への展望（ワークショップ）

日時：平成26年1月12日（日） 10:00～15:00

講師：木村 光伸（名古屋学院大学リハビリテーション学部教授）

概況



科目名：森林再生への展望（ワークショップ）

講師：名古屋学院大学リハビリテーション学部長 木村 光伸 教授

先に起こった東日本大震災、福島原子力発電所の爆発によって私たちは自然災害の恐ろしさとエネルギー資源の大切さを改めて実感することとなりました。また、産業革命以降、文明を発展させてきた私たちは豊かな暮らしをしてきましたが、その反面、自然環境に多大な影響を与え、自然環境の急激な変動を引き起こす結果をもたらし、自然との関係が徐々に悪い方向へ変化してきてしまっています。

ところが、1970年代からは自然環境について世界規模で考える時代が到来し、我々個々のレベルでも環境に配慮した暮らしを考えるようになってきました。自然と共に暮らすにはどうしたらいいのでしょうか。

日本では里山(SATOYAMA)という文化が存在していました。里山とは、人が自然を利用しやすい環境として整備した場所で、自然の恩恵を直接的に受けられる場でもあります。里山では、自然と共に暮らす生活が成り立っていたのです。現在では「里山の暮らし」はあまり営まれておらず、人と自然との関係が薄れてきてしまっていますが、もう一度、人と自然の関係について考えるための要素として、里山は重要な存在であるといえます。

今回の授業では、自然に自ら触れ、何か新しい発見をしてみよう！ということで、遊歩施設を散策しました。森を実際に歩いてみると木々はほとんど落葉し、日の光が森に差し込んで林内はとても明るい状態で、自然は刻々と変化していること、自分自身が思い描いている森の中とは異なる情景を見ることができることがわかりました。海上の森に限らず、自然界は自然のままに生きているのです。

今期の海上の森大学講義の最後の締めくくりとして、100年後の海上の森がどのようなになっているかを皆さん一人ひとりに考えていただきました。自然と人が互いに身近な存在になり、自然と共に生きる場になっているというご意見が多かったので、将来的に海上の森からそのような場所が広がっていくと嬉しいです。